

第2章 避難を促進するための情報伝達システム (Owasegu : オワセグ) (三重県尾鷲市の事例)

1. 尾鷲市の概要

三重県尾鷲市は、三重県南部の太平洋に面した人口19,605人(H26.12.1)、面積193.17km²の市である。山地が大部分を占め、沿岸部の平地に多くの人が生活している。

地理的、地形的な条件から全国的にも雨の多い市である。海岸線はリアス式で、海岸線の住宅地の裏はすぐに山となっているところが多い。このため、台風や大雨による土砂災害のリスクが高く、過去にもたびたび大きな災害を経験している。さらに、地震・津波のリスクも大きい。過去には、南海トラフを震源とする地震を繰り返し経験し、今後も巨大地震・津波の危険性が指摘されており、「災害が起きる前に逃げることを前提とした」防災対策を進めている。

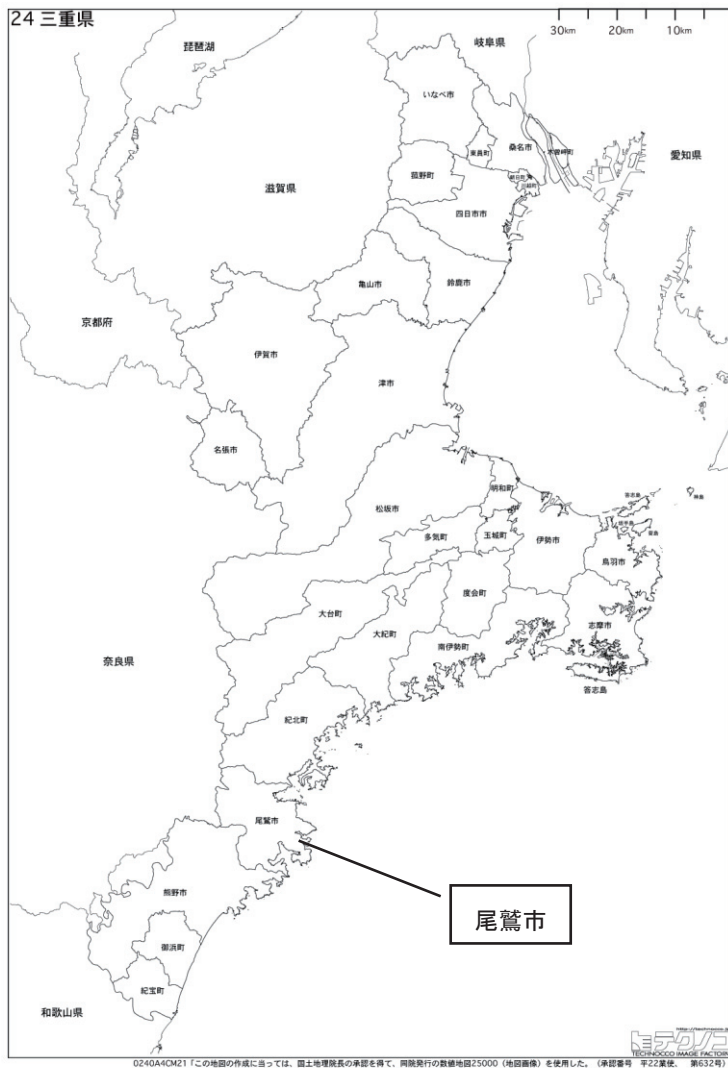


図1 尾鷲市の位置

(出典) テクノココ白地図イラスト : <http://technocco.jp/>

2. 避難を促進するための情報伝達システム (Owasegu : オワセグ)

「災害が起きる前に逃げることを前提とした」防災対策は、さまざまな情報をいかに迅速的確に住民へ伝達するかという観点から取り組んでいる。伝達手段としては、これまで同報系防災行政無線（屋外拡声、一部戸別）、防災メール（登録制）、ホームページ、フリーダイヤル（防災行政無線確認用）など